

平成 30 年度授業改善プランの検証

- ・主体的・対話的で深い学びを、身に付けさせる。
- ・全学年で落ち着いて授業を進めることができた。
- ・第 2 学年では、「防災マップを作ろう！」という題材で、ハザードマップの作成をグループで行った。生徒たちが住む地域を題材として扱うことで、より主体的に学ぶ姿勢を見ることができた。また、グループ発表を行い、対話的な学びにつなげることができた。
- ・学んだことを実生活に生かすことや体験学習、問題解決型学習を意識し、実験や実習、調べ学習、発表活動を 3 学年全てで行った。

技術・家庭(家庭分野)の授業改善策

- <主体的・対話的で深い学びを、身に付けさせる>
実生活で生かすことができる技術・技能の習得をできるようにする。家庭学習課題・実生活で活用できる物の製作・調べ学習・発表活動・近隣保育園との幼児交流等。また、話し合い活動やレポート課題、感想記入、振り返りカード等を通し、言語活動の充実を図る。
- <学習した成果を発揮できる場面を多く設定する>
清陵祭(展示部門)での作品展示・幼児交流会・発表会・レポート課題
- <全学年で生活を豊かにする布を用いた製作を行う>
布を用いた製作を、各学年で段階的に取り入れる(第 1 学年…ブックカバー製作、第 2 学年…トートバッグ製作、第 3 学年…幼児のための布絵本製作)。衣服の修復に必要な知識・技能を、3 年間を通して身に付けさせる。
- <3 年間で調理の基礎・基本の習得を図る>
必ず年に 1 度は調理実習を行い、安全面・衛生面に配慮した調理実習を実施する。難しいものよりも、ご飯を炊く・味噌汁を作るなど調理の基本とされていることをしっかりと押さえさせる。
- <ICT 機器等を積極的に活用し、視覚的に捉えやすい説明や活動を多く取り入れる>
授業の導入にパワーポイントや書画カメラを積極的に取り入れ、生徒の興味・関心を高めさせる。各学年、発表活動の際に書画カメラを使用し、自身の意見を拡大させるなど、教室全体への共有を意識させる。
- <PDCA サイクルを意識した授業づくり>
調べ学習やレポート課題を振り返ったり他の生徒と見合ったりする時間を設ける。作品の自己評価をさせる。そして、より良い学びにしていく。